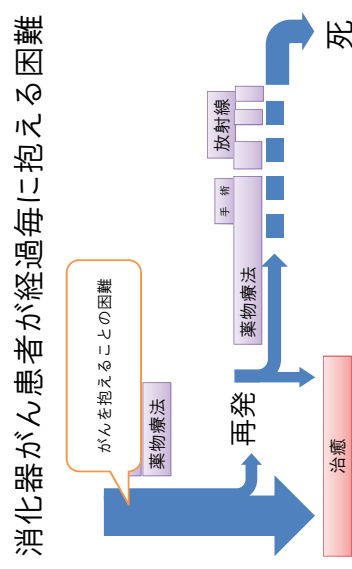
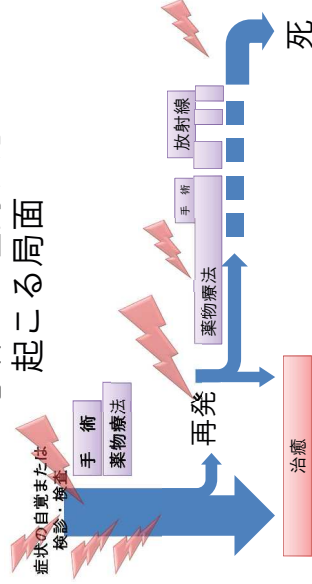




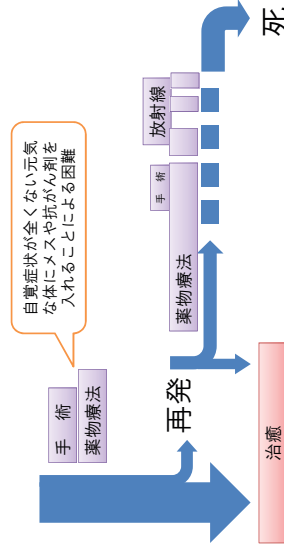
## がん患者が辿っていく局面

- 症状の自覚
- 検査
- 診断
- 治療方針の決定
- 治療
- リハビリテーション
- 経過観察
- 再発・進行
- 抗がん治療中止
- 死

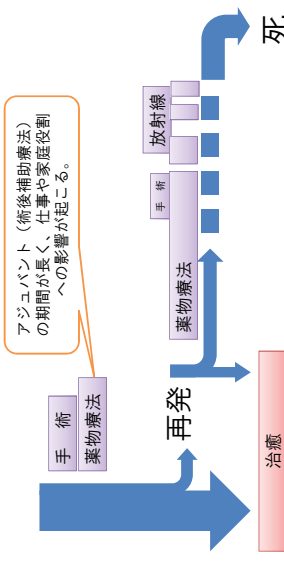
## がん患者の心理的反応が起こる局面



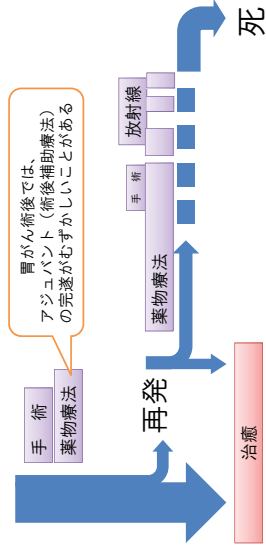
## 消化器がん患者が経過毎に抱える困難



## 消化器がん患者が経過毎に抱える困難



## 消化器がん患者が経過毎に抱える困難

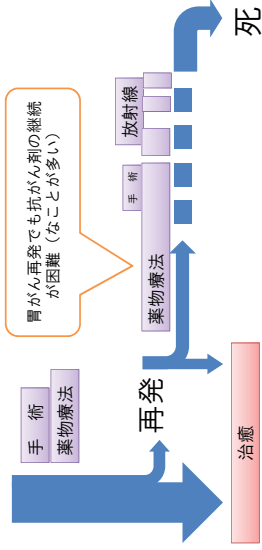


## 再発のとき

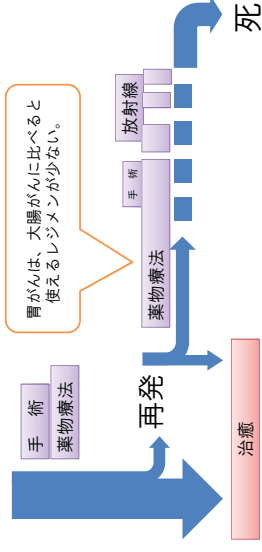
再発を上げられた患者の心理過程は、がん診断時のそれとほぼ同等であるか、それを上回る。がんの知識が豊富に整理されている分、事態は極めて深刻で、現実を容認しきれず破局的な心理的打撃を受ける。もっともつらい時期であったと述懐する患者は多い。

再発の時期は、将来にわたる重要な決定が待ち受けている。

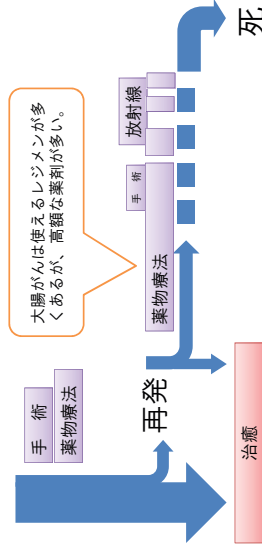
## 消化器がん患者が経過毎に抱える困難



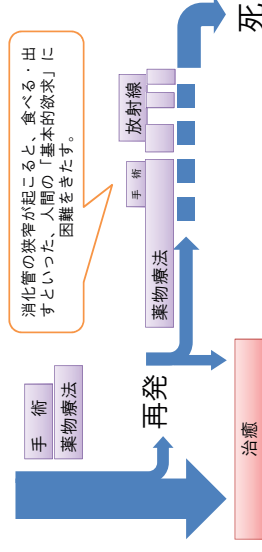
## 消化器がん患者が経過毎に抱える困難



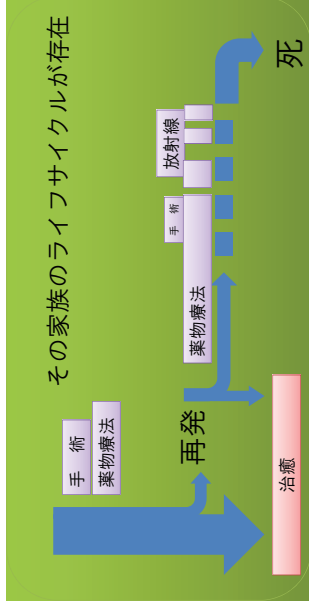
## 消化器がん患者が経過毎に抱える困難



## 消化器がん患者が経過毎に抱える困難



## 消化器がん患者が経過毎に抱える困難



## がんに対する反応の経過と心理的反応

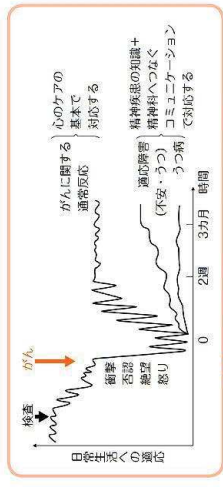


図2 がんに対する通常のこころの反応とその対応

引用：小川勝生，内藤康介編（2010）. これだけは知っておきたいがん医療における心のケア：精神腫瘍学ポケットガイド，東京，創設出版，9)

意思決定支援とは決めることを手伝うだけではなく  
この状態から、物事を決められるくらいに  
なるまで支えつつ、決める手伝いをする。



意思決定支援のときに、気に留めていること

- アセスメント（フレームワーク）
- 意思はゆらぐ
- 死は怖いもの
- がんが不確であることは確実である
- 死は確実である
- がんの死の予測は簡単にできないこと

2016/10/15

4

患者からの意向を引き出すには、  
コミュニケーション・スキルを使う

- 適切な環境を設定（提供）する
- 認識を（確認）知る
- どこまで知りたいたいか把握する
- 情報を伝える
- 共感を示す
- 方針を提示する

SPIKES\*の応用です。。。

## 治療の中断（または中止）を決める場面

### 具体的状況

- 有症状が悪化した時に、治療を継続するか否か
- セカンドライン以上の治療に効果が現れなくなった時、次の抗がん治療を行うか否か

### 患者の反応

- 次の治療を勧められ戸惑う
- 病状悪化を予測して遠方に暮れる
- 今後に漠然とした不安がある
- 治療に終わりがなく、普通の生活に戻れないのではないか
- 代替療法に切り替えたらよいだらうか

# 療養する場所を決める場面

## 具体的状況

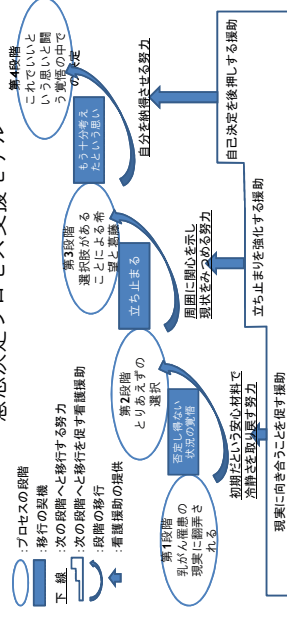
- 療養を受ける医療機関の選択、転院先の選択
- 終末期ケアを受けられる場所として、地域の医療機関or緩和ケア病棟or在宅療養のいずれを選択するか
- 患者の希望と家族の希望が一致

## 患者の反応

- 治療中止、病状悪化時の療養方法の選択故を知りたい
- 自宅での過ごし方の留意点がわからぬ
- 病状が悪化する時期を予測し、人生の整理や最期を迎える準備をしたい
- どのような医療機関や社会資源があるのかわからない

看護師に対する認知アセスメントと訂正、日本看護協会、2015

# 乳がん患者の初期治療選択における意思決定プロセス支援モデル



国際浩子,お茶の水医学雑誌 第52巻第1号, p63-82

## がん患者の意思決定における課題と対応

- 看護師やワーカーが代弁者になれない (なりきれない)  
医師との情報共有・コミュニケーション
- 予後の長さで家族が治療場所を選択しようとする  
予後の長さが選択の要素にできないことを意識化
- 家族の協力が得られないため転院・治療方針など代理意思決定がでない  
患者家族への役割の直面化
- ほとんど来ない血縁者が、急に決定を覆す。  
その家族の物語を聞いてから存在を認知する

## 意思決定のまとめ

意思決定で大切に扱う「もの」は

患者（と家族）の「考え」「思い」「価値観」

意思決定支援に役立つのは

コミュニケーションスキル

意思決定支援ツール

意思決定支援の基礎にあるものは

心理的支援

## 資料1 SPIKESとは

- S : Setting  
適切な面談環境を設定する。
- P : understand patients' Perception  
患者さんがどのような自分の病気を認識しているかを把握する。
- I : obtain patients' Invitation  
患者さんがどこまで知りたいか把握する。知りたくないことにも着目する。
- K : provide Knowledge  
診療情報を伝える。
- E : have and show Empathy  
共感を示す。
- S : suggest Strategy  
サマリーした後、どういうふうにながんと戦っていくかを提示する。<sup>49)</sup>

2016/10/15

## 資料2 意思決定支援のプロセスにおけるスキルの評価指標

段階	評価指標
①ニーズをアセスメントする	意思決定プロセスのどの段階にいるのが確認できているか 患者が理解している知識や情報は十分か
②意思決定ニーズを要約する	患者の価値観、現れている状況について確認できているか 真の意思決定ニーズを焦点化することができているか
③意思決定支援を提供する	患者が必要なリソース（医師、家族、友人、情報など）にアクセスすることができているか リソースが活用できていない場合には、その原因について把握し解決策を見出すことができているか
④行動を促進する	患者が意思決定に向けて行動することができているか 行動が途中で行先詰まっている場合には、その原因について把握し解決策を見出すことができているか
⑤将来的な意思決定のために学習することを促進する	患者が、将来的に、繰り返し意思決定が必要な場面に遭遇することに備えることができるか そのために必要なサポートが受けられているか

看護師に対する認知アセスメントと訂正、日本看護協会、2015

資料3 がん体験者の悩みや負担等に関する  
実態調査

2013 がんと向き合った4,054人の声（がん  
体験者の悩みや負担等に関する実態調査  
報告書）

「がんの社会学」に関する研究グループ  
（研究代表者 静岡県立静岡がんセンター  
総長 山口建）

<http://cancerqa.scchr.jp/sassi28.html>